

ピカイチ先生の
生活経営セミナー

2015年09月
企業から学ぶ現場の知恵
(③ 制約理論)

ネクストライフ・コンサルティング

〒975-0038
福島県南相馬市原町区日の出町167-3
info@next-life-consult.com



ピカイチ先生

ピカイチ先生

検索

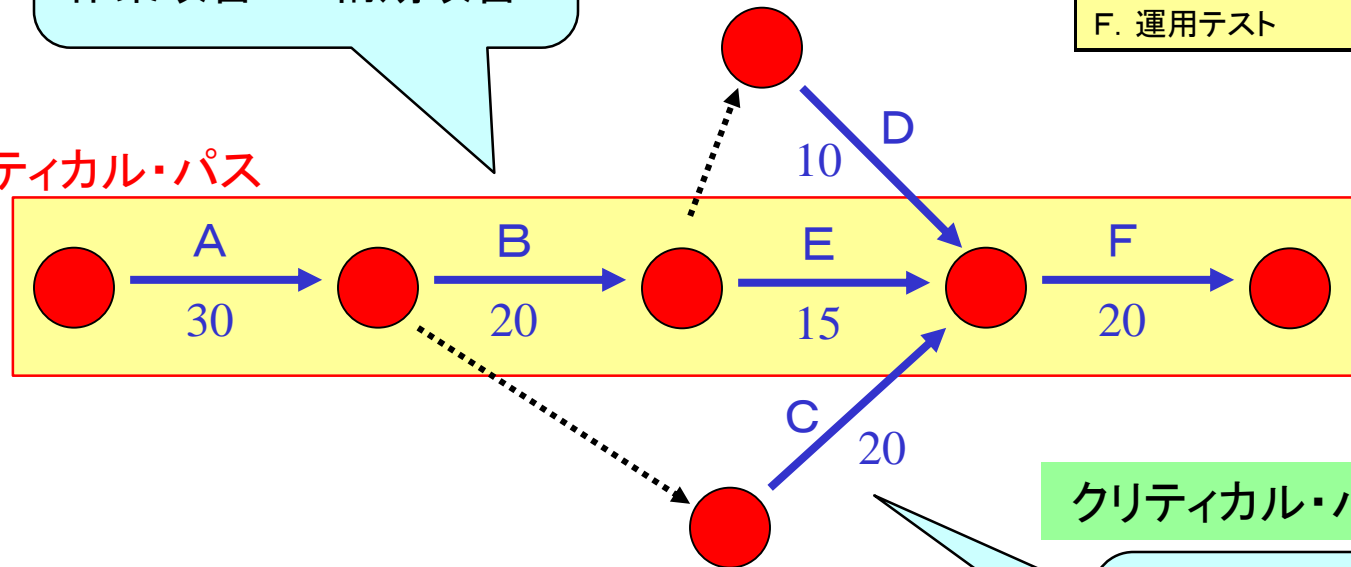
クリティカル・パスを見る

作業	作業日数
A. システム設計	30
B. プログラム作成	20
C. 回線申請設置工事	20
D. データベース移行	10
E. システムテスト	15
F. 運用テスト	20

クリティカル・パス上の場合

作業遅れ ⇒ 納期遅れ
作業改善 ⇒ 納期改善

クリティカル・パス

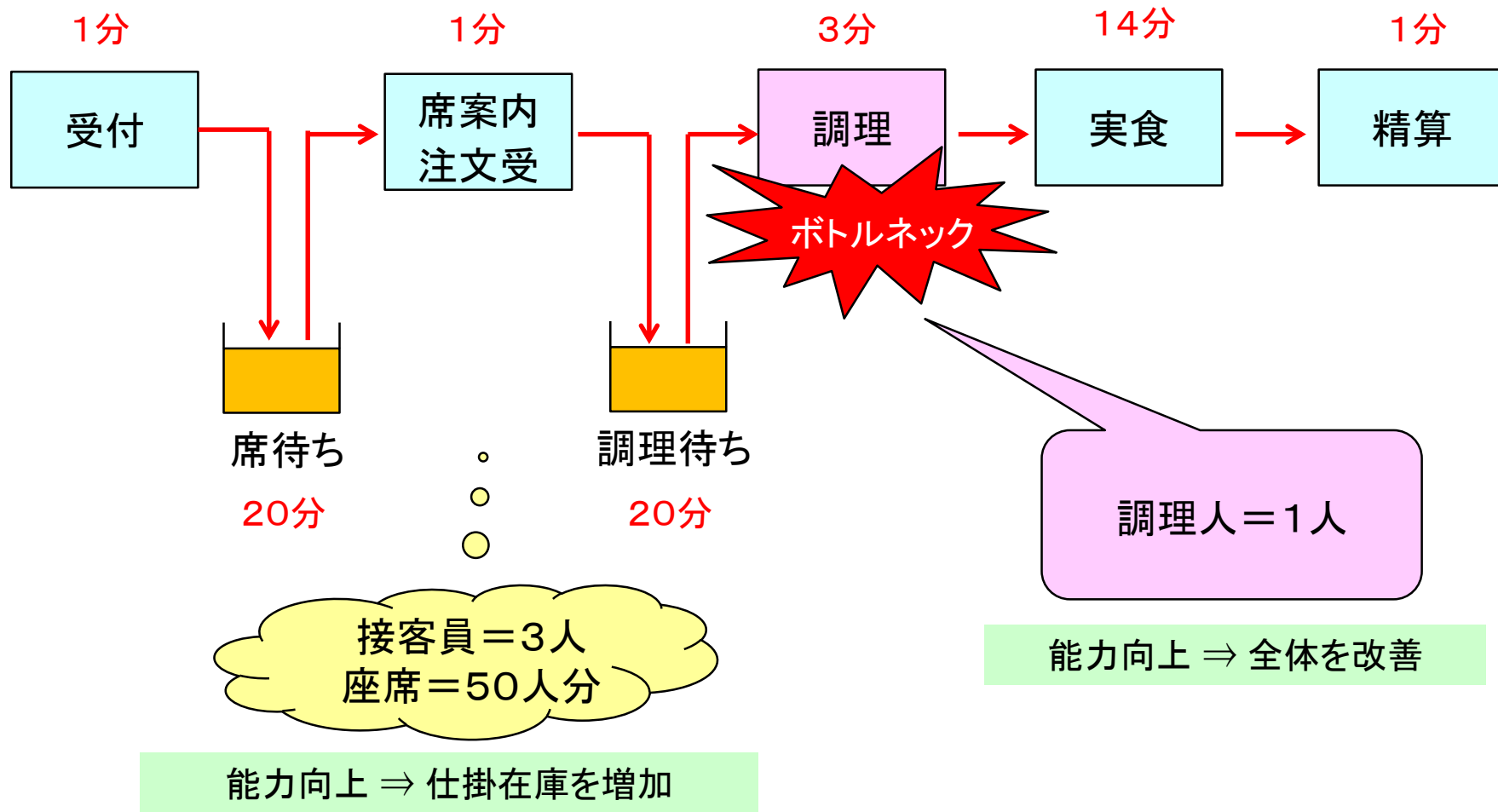


クリティカル・パス以外の場合

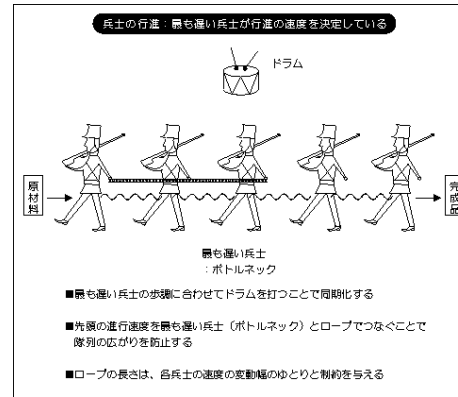
作業遅れ ⇒ 余裕あり
作業改善 ⇒ 効果なし

ボトルネックを見つける

ラーメン店での昼食(60分)



DBR (ドラム・バッファー・ロープ) とは？



部分最適を規制する

最も遅い兵士の歩調に合わせてドラムを打つことで、全体を同期化する

先頭の進行速度を最も遅い兵士（ボトルネック）とロープでつなぐことで、隊列の広がりを防止する

ロープの長さは、各兵士の速度の変動幅の[ゆとり]と[制約]を与える

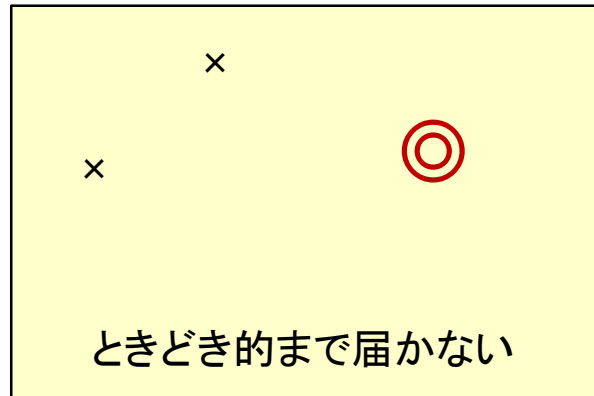
全体を最適する

[ムダ]を省く

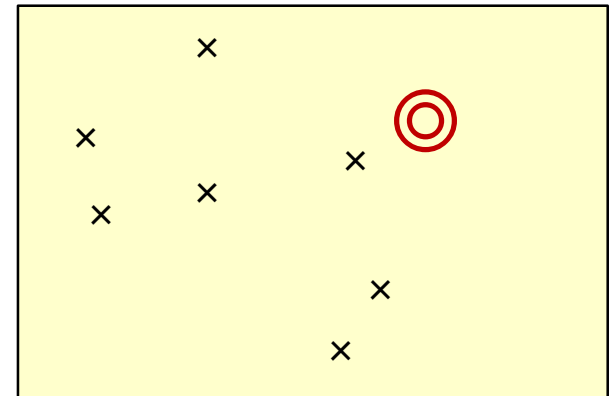
[ムリ]を無くす

[ムラ]を減らす

ムリ・ムラ・ムダとは？



①ムリを無くす



次の的へ

無理がある

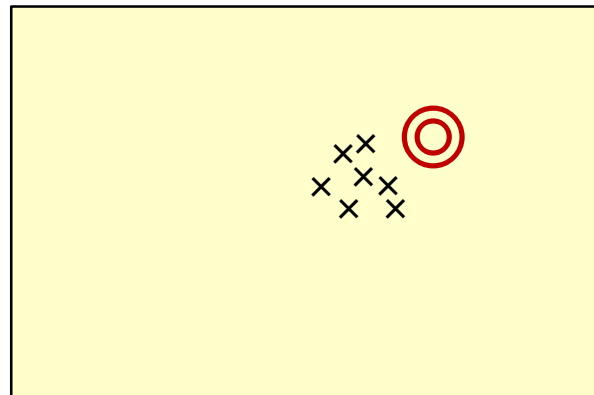
精度が悪い



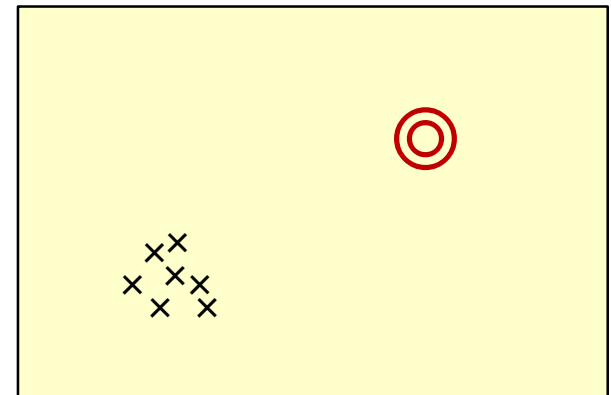
実力を発揮

確度が悪い

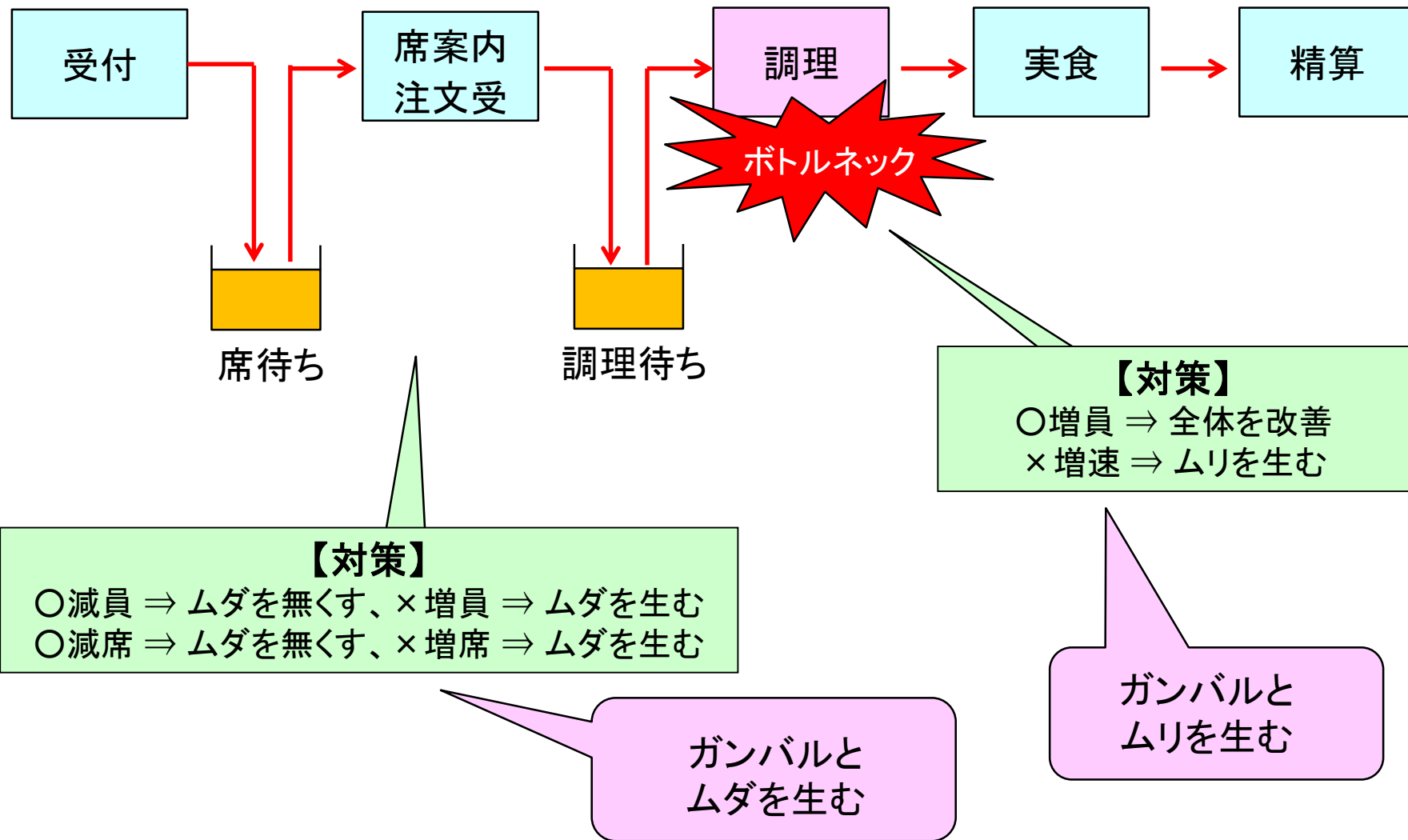
②ムラを減らす



③ムダを省く



作業改善がムダを生む



固定費のムダを洗い出せ

以前、某役所で労働生産性を分析する仕事をしたときのことです。

当時、この役所では人海戦術で作業を行っていました。そこで、1人あたりの労働生産性を高めるためとの理由で、1台数百万円する機械が何十台も導入されました。

たしかに従業員1人あたりの作業量は飛躍的に高まったのですが、採算はますます悪化しました。

理由は簡単でした。従業員が1人も減っていなかったからです。このようなことは珍しくはありません。

(中略)

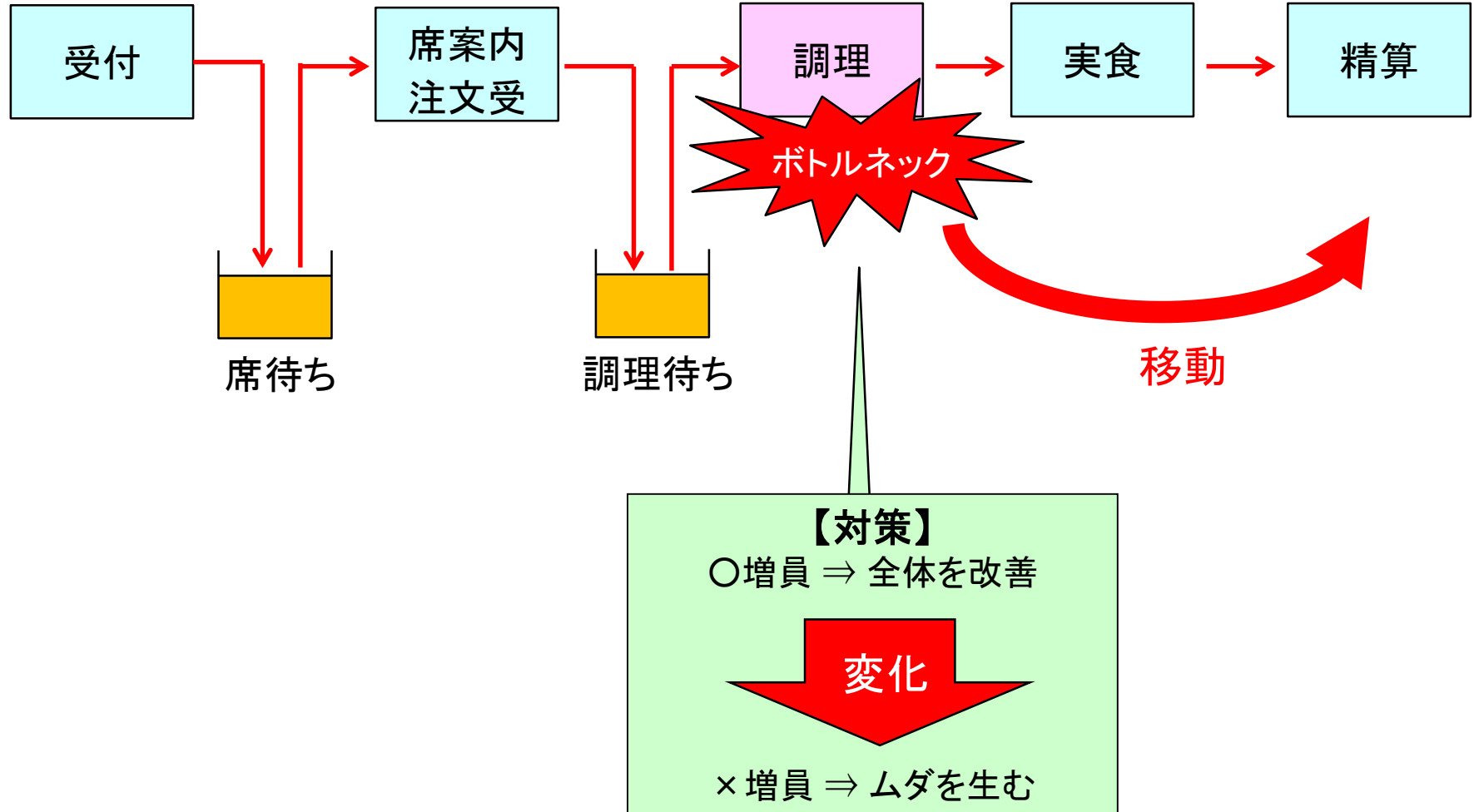
たしかに、会社は放っておくと、必ず仕事が増えてしまいます。

たとえば、上司が部下に分析資料をつくれと命令する。要求された側は、すでに手一杯の仕事を抱えていますから、その仕事を処理するために、あらたに部下を補充してほしいと要求します。その部下も、最初の頃は仕事量も少ないのですが、時間を埋めるために新しい仕事をつくるので忙しくなり、また部下を要求することになります。

その結果、仕事が増え、人が増え、固定費がどんどん増えてしまうのです。

『世界一わかりやすい会計の授業』(林總)より

ボトルネックが移動すると



虫の目、鳥の目、魚の目

そもそもプロの経営者は、どのような視点に立って経営しなくてはならないのでしょうか？

伊丹敬之教授は著書『よき経営者の姿』（日本経済新聞出版社）で、次のように書かれています。

「第一は、多目的な目を持つ、ということである。それを比喩的に表現すると、虫の目、鳥の目、魚の目という三つ目でものを見る、ということである。

（中略）虫の目で見るとは、地面をはい回る虫のように、細かな詳細をきちんとするようにするということであり、

（中略）鳥の目で見るとは、大空を舞う鳥のように、高く広く、モノを見ることである。

（中略）魚の目で見るとは、潮の流れに従って動く魚のように、流れの先がどこへ行くかを読むために、その時々小さな変化や大きな流れに目をこらしてものを見、また考えるということである。」

『世界一わかりやすい会計の授業』（林總）より